

生涯教育研修活動報告書

細胞検査研究班

- 1 実施日時：2025年2月14日 18時30分～20時00分
- 2 会場：浦和コミュニティセンター第13集会室 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：Let's 供覧 ー胆汁・膵液の運用についてー
- 4 講師：中村 香里（川口市立医療センター）
中田 麻美（株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所）
船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 47名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 野本伊織 猪山和美 稲山拓司
小川弘美 並木幸子 加藤智美

8 研修内容の概要・感想など

Let's 供覧!!と題された本研修会は、10年以上にわたって企画・運営されており、今回は消化器領域の胆汁や膵液をテーマに開催した。胆汁や膵液は各施設での運用方法が異なり、多種多様な方法で実施されていることから、標本作製方法などの標準化が課題となる領域である。そこで、一般病院や検査センターの講師を招聘し、それぞれの運用方法や課題について講演していただいた。加えて、県内施設の実施状況を把握するため、事前に病理細胞診を行っている県内各施設にQRコードを印刷した案内文を配布し、施設回答と個人回答を分けてアンケート調査を実施した。

講演1では、中村氏より一般病院における検体処理の実際や、それに伴うピットフォールについて解説がなされた。特に、LBC法の導入により標準化が進み、細胞判定の精度向上が確認されたことが示された。講演2では、中田氏より検査センターにおける胆汁・膵液の運搬から標本作製方法、それに伴う問題点について説明がなされた。多数の施設から検体が集まる環境では、標本作製が重要であることが強調された。講演3では、船津氏より事前に実施したアンケート調査の結果をもとに、詳細な分析結果が示され、施設ごとの回答結果のばらつきが明らかとなった。特に、本領域における標本作製法や診断手法の多様性が浮き彫りとなり、LBC法への関心が極めて高いことが確認された。さらに、LBC法の導入を検討してい

る施設が増加していることが示された。

本研修会を通じて、胆汁・膵液の細胞診における運用方法や課題が共有され、特に LBC 法の導入に関する関心の高さが明らかとなった。LBC 法の導入に際しては、既存の細胞像との比較や標本の品質評価を慎重に行う必要がある。また、本研修会で得られたアンケート結果は、県内の胆汁・膵液細胞診の現状を把握する貴重な資料となり、今後の標準化の議論に役立てられることが期待される。

提出日：2025 年 2 月 21 日

文責：鶴岡慎悟